

## 気候変動下での近年の北方林森林火災

## Recent Boreal Forest Fires under Climate Change

# 早坂 洋史 [1]

# Hiroshi Hayasaka[1]

[1] 北大・工・空間

[1] Environment, Hokkaido Univ.

ユーラシア大陸と北米大陸には、北極圏を取り囲むように北方林が存在している。この北方林では、近年の気候変動に伴うと思われる森林火災の活発化現象が見られる。本論文では、アラスカとシベリア極東のサハ共和国の森林火災の半世紀の火災動向と気象条件との関連性につき検討を加え、気候変動がどう両地域の森林火災に影響を及ぼしているかを明らかにした。

サハ共和国のヤクーツクでは、1830年と比べると約3度ほどの気温上昇が確認されている。サハとアラスカでは、70年代より温暖化が顕著となり、同時に降雨量の漸減が見られる。アラスカとサハの1950年代半ば頃からの火災歴により、1990年代からの焼損面積の増加は顕著である。暖かい乾燥した気象が北方林の燃焼性を高めており、2002年にはサハ、ヤクーツク周辺で大規模な火災が発生した。2004年には、アラスカで26,700 km<sup>2</sup>の北方林が燃えた。この際に、1,000 km<sup>2</sup>を越す9個の大規模火災が、記録的な高温と厳しい日照り下の夏期に発生し、大きな気圧差が生じた、ほんの2、3日で広範囲に燃え広がった。こうして、2004年の火災は、1956年からのアラスカ火災史上、最大規模の火災となった。2005年にもアラスカは19,000 km<sup>2</sup>と、二年連続で大規模に燃えた。2004,2005年の総焼損面積は、アラスカの森林面積の10%に達した。気象変化傾向と火災の発生状況との相関から、気候変動の影響で、両地域の北方林火災が活発化している事が示唆された。